

LEARN WITH ソフトバンク ～魔法のプロジェクト 2024～ インクルーシブ教育 実践事例

事例の活用について

※本事例の知的財産は投稿者に留保されます、使用される際には出典として
「LEARN WITH ソフトバンク ～魔法のプロジェクト 2024 組織名」 を記載ください。

■基本情報

組織名： 守口市立よつば小学校

所在地：
※都道府県・市区町村 大阪府 守口市

氏名： 房前 千里

■インクルーシブ対応を検討するきっかけとなった児童・生徒（※以下「対象の子ども」と略）について

対象の子どもの学齢 選択してください。

障害種別：
 知的障がい、知的障がいを伴う ASD
 高機能自閉、アスペルガー症候群 読み書き障がい
 注意欠損多動性障がい (AD/HD) 肢体不自由
 聴覚障がい 構音障がい 視覚障がい 病弱
 重度重複障がい その他 ()

主訴 (主な困り)
 読む 書く 聞く 見る 話す 記憶する 移動する
 その他 ()

その他補足
・自閉症・情緒障害学級5年生3名、6年生6名(6年生のうち2名は中学校から特別支援学級に入級する予定)
6年生：写し書きはできるが、ノートやプリントに墨字で書くことや書きながら理解することに困難がある。
5年生：筆記スキル、自分で想起して書くこと、教科書とノートを行き来して学習することに困難がある。

■対象の子どもが利用している ICT について

①利用端末 (ハード) タブレット PC その他 ()

②OS Windows MacOS Chrome Android iOS その他

② 周囲の児童生徒が ICT を使用するにあたり、個別の許可が必要ですか？

はい いいえ

■インクルーシブ対応に向けての工夫について

①前問で、「いいえ」と回答された方にお伺いします。環境整備に向けた実施事項/工夫点について記載ください

実施事項/工夫点

タブレット端末は、通常の学級において児童に教材を配布したり、児童の回答を集めたり、一覧にして電子黒板に表示したりするなど、どの教科でも似たような活用方法でしか使用されていない。また、プレゼンテーションアプリなどは通常の学級で使用されているが、個の学習に焦点を当てた使用法は検討されていない。そこで、特別支援学級からネイティブアプリの活用事例の報告を積み重ねることで、通常の学級で使用する際や中学校進学後も児童自身が活用できるスキルを身に付けさせたい意図があることを教職員に周知している。

■その他

参考になる写真があれば、こちらに添付してください。

※個人の写真が含まれる場合、事前に保護者の許可が得られているものに限ります。詳細は投稿要綱をご確認ください。



■変化や効果について

①対象の子どもにどのような変化がありましたか

6年生：端末を使用して学習することで、今まで難しいと思い込んでいたローマ字入力にも取り組むようになった。また、促さなくても物理キーボード（本校の場合は外付け）を持参して授業に参加し、必要な場合はローマ字表を参照しながら入力している。また、自分で工夫して学習で使用する算数の公式をプレゼンテーションアプリにまとめたり、まとめ方をアドバイスし合ったりするなど児童同士も自ずと話し合いながら学習するようになってきた。

5年生：タブレットで提示された質問や図に回答するには、教員とやり取りしながら読んだり、友だちの発言にも耳を傾けたりする必要がある。また、これまでは教員に聞いてばかりだった漢字の読みも自分で調べて入力することで、学習そのものに集中して取り組める時間が増えた。

③ 対象の子ども以外の児童・生徒や、学校全体にどのような変化がありましたか

高学年の児童がタブレット端末を使用して学習しているのを見て、2年生の書くことに困難がある児童も取り組みたいと話したため、iPadの画面上に問題を拡大してデジタルペンシルで書いたり、アプリ上で図を操作したりすることなどに取り組み始めた。

また、iPadのネイティブアプリを使って教材を作成することで、他クラスの教員がその教材を児童に使いたい際には、クラウドにて共有した教材データに担任が児童に合ったものになるよう編集を加えるなどして活用するようになってきた。